

# 春闘・組織拡大・労働条件改善

# 国 労 水 戸

国労水戸地方本部  
 水戸市中央1-1-11  
 ENYビル2F  
 029-221-4008  
 発行責任者 塚原良雄  
 編集責任者 坂本公則

## 第185回拡大中央委員会を開催

2015年春闘がスタートする状況の下で、国労本部は1月24日(土)第185回拡大中央委員会を新橋交通ビル会にて開催しました。

中央委員会の重要課題は①組織拡大

### 赤沼中央委員が発言

第185回中央委員会は全体で14名の発言がありました。以下発言内容とします。

#### 組織拡大について

昨年12月、清水泰彦さん(59才)と塚本研一さん(51才)が国労加入を決意してくれました。各地方からの激励を頂きありがとうございます。勝田地区分会、平地区第一分会がそれぞれ歓迎集会を開催しました。加入された両名から「いつも、周りに国労の人がいたことで心強かった」と語りました。分会組合員からは、長期に渡り世話役活動を行い信頼関係ができ、それが成果に結びついたのでと思います。

地方本部として3年8ヶ月ぶりの拡大でしたが、年2回の代表者会議、職場活動家交流会、新規採用者加入行動など多くの行動を展開して来ました。成果が出ない

②2015春闘及び労働条件改善③JR三島・貨物の構造矛盾問題等の鉄道の維持、再生の課題について議論され当面する闘争方針を全体で確認し決定しました。

### 中、盛岡地方本部との経験交流

行方事で、「水戸も盛岡も取り組みは同じであり、諦めず継続することでの成果につながる」と経験談が報告されました。地方本部は今後、本部から提起されている「職場実態調査」をもとに分会運動を検証し、組織拡大へと繋げ取り組み強化を図ることにしています。

### 脱原発・反原発運動について

現在も14万人が避難生活を強いられる実態は変わりません。高線量・除染の遅れ・汚染水問題等まったく進まず、過酷労働により労働災害が増加しています。

### 第2回「国労フクシマ交流会」

が開催され、JR会社がプレス発表したバス代行ルート(竜田駅〜原ノ町駅間)を視察しました。線量は8〜9マイクロシーベルトと高線量を示しています。また、昨年

◇第170回拡大地方委員会  
 ◇3月7日(土) 9時30分  
 ◇いわきラトプ(いわき駅前)  
 ◇議題①当面する闘争方針  
 ②その他  
 第170回拡大地方委員会を開催し、反合理化、組織拡大、2015年春闘方針を確立すること

6月1日から運転再開された(広野駅〜竜田駅)区間に乗務員する労働者からは、乗務作業はしたくないとの不安の声が上がりました。(女性社員の声)見えない放射能・被ばくの恐怖、人体への予知できない影響を鑑みれば、労働者の様々な不安、利用者からの不安を申し入れ(水戸支社)改善を図って来

ました。被災地方本部として、引き続き監視等を強化しながら、情報を発信して行きたいと思えます。今後とも上部機関はもとより関係共闘とも連携を図り強化してまいります。国労本部へ「国労フクシマ交流会」の継続を要請するものです。

組織のあり方について  
 組織の展望について昨年12月、代表者会議の中で現状の運動をどう進めて行くのか提起し、今後も丁寧な議論を行い、未来を創る運動を進めて行きます。

### 委員会を傍聴して

がありました。

昨年末の衆議院解散総選挙によって、「自・公」連立で325議席を確保する結果となり、安倍政権の進める「戦争のでき国づくり」に加速がつく状況となった。この間の独裁的政権運営にみられる様に益々勤労国民・労働者を苦しめる法案を強行することが想定をされる。そうしたことから統一自治体選挙による国労議員団の必勝を訴える発言がされました。

2015春闘は、15000円の統一要求額獲得に向け各地方・エリア本部で取り組みを強化し、反合理化職場の労働条件改善に繋げて行くことを確認した。一方で各会社間の格差が拡大をしている中で、各エリアに幅を持たせた運動提起の発言

### バス代行でいそぐ

1月31日、JR常磐線竜田駅から原ノ町駅間(46キロ)をバス代行運転が開始されました。バスは、昨年9月に運行が自由になった原西側の6号線

40円。政府

推計によると、

一日2往復で、一回運行する

所要時間は1

と乗客らが受

ける被ばく線

量は1・2マイ

クロシーベルト。

運転手と他の

一人が乗務し、

線量計が車内

に設置され空

間線量を測定。